

鶏肉情勢

令和3年3月3日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
生	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和3年2月下旬実施)によると、1月の推計実績は、処理羽数58,196千羽(前年比97.6%)・処理重量175.5千ト(同98.0%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同98.3%)は0.7%下回ったものの、処理重量(同97.3%)は0.7%上回った。鳥インフルエンザの拡大や寒波による育成率の低下が反映されたと思われる。廃棄合計は4.22%と前年同月より0.18%下回った。 (2) 2月は処理羽数(前年比97.1%)・処理重量(同96.9%)とも前月時点の計画値(97.2%・96.9%)並み。3月は処理羽数(同104.6%)・処理重量(103.9%)ともに前年を上回るも前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同104.5%)は0.1%増加も、処理重量(同104.1%)は△0.2%と下方修正された。なお(一社)日本種鶏卵卵協会の昨年12月末時点での種鶏導入調査結果によると、2021年次は4,792千羽、2021年度では4,791千羽と推計され、農水省の統計結果の実績に対し年次で同0.4%減少、年度では同1.4%減少が見込まれる。とされた。ひな生産能力の減少が見込まれ、コマース素ひなえ付羽数を前年比1.5%増と仮定すると、年間11,250千羽不足が見込まれる計算となる。
	2. 輸入 (1) 財務省2月25日公表の貿易統計によると、1月の鶏肉(原料肉)輸入量は48.93千ト(前年比117.6%)で、日本食肉輸出協会の予測(46.80千ト)を約2.1千ト上回り、国別ではブラジルが予測を約2.4千ト上回る35.44千ト(同116.3%)、タイは逆に約0.4千ト下回る12.14千ト(同118.1%)となった。価格については前年同月比で24.7%値下げとなっている。同協会(2月19日鶏肉輸入動向検討委員会:書面開催)は、2月46.30千ト(同105.4%)、3月44.60千ト(同95.5%)との予測を公表。今回コメントはないが先月の2月予測(45.80千ト(同104.3%))より上回るとされ、新型コロナウイルス感染症による巣ごもり需要の増加および鳥インフルエンザの感染拡大等で、国産鶏肉が不足気味となっている影響があると思われる。 (2) 鶏肉調整品の1月輸入量は33.68千ト(前年比85.7%)と、前月より約10.4千ト減少した。国別ではタイ産が前月比約4.5千ト減少し前年比96.5%の22.89千ト、中国産も前月比約5.9千ト減少の10.35千ト(同68.6%)となった。回復の兆しが見えつつあったが、長引く業務筋からの需要の落ち込みを反映した動きが表面化したと思われる。2月以降についても、不透明かつ流動的で中国国内の動向次第と思われる。
産	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、令和2年12月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は4,766g(前年比112.2%)、金額も7,868円(同107.9%)と、ともに前年を上回った。畜種別でみると牛肉は数量(同106.2%)・金額(同103.1%)ともに上回り、豚肉も数量(同113.7%)・金額(同112.4%)ともに上回った。鶏肉についても同様で、年末ということもありテーブルミート等での購入が活発で数量(同113.2%)・金額(同109.8%)とも前年を上回り、特に数量の伸び率が高かった。また加工品についてはハム(同92.3%)の数量が下回ったが、ソーセージ(同111.3%)・ベーコン(同121.1%)の数量が増加した。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和3年1月の食品売上高は全店ベースで前年比106.9%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比109.2%、既存店ベースでも同108.2%と上回った。畜産部門の売上高は1,180億円で全店ベース(同110.8%)、既存店ベース(同109.8%)とも前月に続き前年を上回った。「緊急事態宣言発令に伴う調理需要の増加により、大型パックを中心に月間を通し、かなり好調に推移した。前年暖冬からの反動により、鍋用食材の引き合いが強く、相場の上昇も追い風に豚肉や鶏肉が好調となった。牛肉にも国産、輸入問わず需要が集まっているが、和牛価格に上昇傾向がみられており、伸び悩んだ店舗もみられた。ハムなど加工肉も引き続き堅調に推移した。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同100.9%)は前年を上回ったものの、既存店ベース(同99.8%)は僅かに下回った。「年始に帰省客減少による影響を受けたほか、成人式をはじめとするイベント中止で予約販売が不振となった。引き続きバラ売りや試食販売自粛の影響、通勤客減少の影響を受けた夕方以降の来店客数減少を受けている店舗が多い。中食ニーズにより米飯類に回復がみられたほか、気温低下により麺類などホット総菜、「家飲み」向けおつまみ総菜は引き続き堅調に推移した。」と報告があった。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる令和2年12月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.6%の4.25千トとなった。うち国内物は同96.2%の3.40千トと下回り、輸入物は同122.8%の0.85千トと上回った。同年1-12月累計では国産物は同99.4%と下回り、輸入物も同92.4%と下回り合計でも同98.2%となった。畜種問わず加工仕向肉量が減少してはいるが1-12月合計で前年比100.5%となった。鶏肉加工品も一時的に減少はしたものの1月以降も引き続き家庭内需要や中食需要があり、国産原料の市況価格は高止まりしているが、中国等からの調整品輸入が減少していることを考えると国産物での製造量回復が期待できると思われる。
在	1. 令和2年(2020年)12月 (1) 推計期末在庫は国産26.84千ト(前年比95.3%・前月差+0.41千ト)、輸入品124.25千ト(同93.0%・同△7.02千ト)と合計で151.09千ト(同93.4%・同△6.61千ト)となった。前月に比べ生産量が13.08千ト増加し、輸入量は2.59千ト減少した。国産品の出回りが生産量を若干下回ったため、国産品の在庫は微増した。輸入品は、出回りが1.56千ト増加の49.73千ト、輸入量が2.59千ト減少し在庫も減少した。2か月連続で国産・輸入合計の在庫が150千ト台となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(令和3年2月24日公表)では、令和3年1月は国内生産量が前月より減少(約17.5千ト)し、輸入量は前月比で約4.1千ト増加、出回り量については前月比で約24.9千ト減少するため期末在庫は約156.0千トと前月より約4.9千ト増加はするが、前年(166.11千ト)より約6.1%減少の見通しとなっている。 (2) 2月は前月比で生産量が約4.5千ト減少し、輸入量はブラジル中心に約0.5千ト減少、出回り量については約6.2千ト増加し、期末在庫は国産・輸入品合計で約149.7千ト(前年比89.3%)と予測されている。3月は生産量が約11.2千ト増加し、逆に輸入量が約1.7千ト減少、出回り量が約3.5千ト増加するため、在庫は約0.3千ト減少の約149.4千ト(前年比87.7%)と予測されている。引き続き新型コロナウイルスおよび鳥インフルエンザ発生により需給動向に注視が必要である。
相	1. 令和3年2月動向 (1) 令和3年2月の月平均相場は、もも肉701円/kg(前月比△10円)・むね肉305円/kg(同△9円)正肉合計で1,006円/2kgと前月比で19円下回るも、前年比では156円上回った。もも肉は月初707円で始まり、上げ下げを繰り返して後半大幅な下げ(前日比△9円)があり月末691円と16円安となったが月平均で700円台を維持した。むね肉も、月初310円で始まり、もも肉と同傾向で月末298円の12円安となったが月平均では300円台を維持した。
	2. 見通し (1) 気象庁発表の向こう1か月の見通しによると、3月の気温は、全国的に平年より高くなるとの予報。コロナ禍が続く中、鍋物需要も終盤戦のため、また花見時期が近づいてはいるが、期待薄のため、もも肉は下げ基調で推移し月平均690円と予測する。むね肉についても、もも肉に付随し、加工筋からの引合いも堅調ではあるが、タイ産むね肉の動向が不透明であり、やや下げの月平均290円と予測する。 (2) 今だ新型コロナウイルス感染が猛威を振り続け、緊急事態宣言が解除されつつも、鳥インフルエンザの発生は例年より多く、あとを絶っていないため、引き続き国産鶏肉の需給への影響が心配される。鶏肉生鮮相場は若干、需給が緩み、下げ基調ではあるものの、例年よりも高水準での推移が見込まれる。

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R3年1月推計実績		R3年2月計画		R3年3月計画		R3年4月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	64,589	100.1%	60,677	98.1%	63,600	101.7%	65,237	102.9%
処理羽数	58,196	97.6%	57,927	97.1%	64,685	104.6%	62,290	100.6%
処理重量	175.5	98.0%	172.8	96.9%	192.2	103.9%	186.4	100.4%

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R2年10月	47.9	51.6	92.8	39.2	45.5	86.1	87.1	97.1	89.7	55.0	45.0
R2年11月	45.3	48.8	92.8	42.7	45.2	94.6	88.0	94.0	93.7	51.5	48.5
R2年12月	42.7	44.9	95.1	44.1	46.9	94.1	86.8	91.8	94.6	49.2	50.8
R3年1月	48.9	41.6	117.6	33.7	39.3	85.7	82.6	80.9	102.1	59.2	40.8
R3年累計	48.9	41.6	117.6	33.7	39.3	85.7	82.6	80.9	102.1	59.2	40.8

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

鶏肉の消費動向(2人以上の世帯) 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年10月	1,538	1,483	103.7	1,424	1,312	108.5
R2年11月	1,498	1,452	103.2	1,425	1,309	108.9
R2年12月	1,839	1,625	113.2	1,763	1,605	109.8
R2年平均	1,565	1,410	111.0	1,440	1,299	110.9

※参考資料:総務省統計局HP

相場(年別・暦年) 単位:円

	もも肉	むね肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年9月	27.8	29.9	93.0	138.4	134.5	103.0	166.2	164.3	101.1
R2年10月	26.8	29.3	91.5	134.1	137.9	97.3	160.9	167.2	96.3
R2年11月	26.4	28.6	92.5	131.3	137.6	95.4	157.7	166.2	94.9
R2年12月	26.8	28.2	95.3	124.3	133.6	93.0	151.1	161.8	93.4

※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別) 単位:円、%

品名	もも肉			むね肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年11月	654	570	114.7	302	262	115.3	956	832	114.9
R2年12月	687	606	113.4	311	266	116.9	998	872	114.4
R3年1月	711	622	114.3	314	262	119.8	1025	884	116.0
R3年2月	701	597	117.4	305	253	120.6	1006	850	118.4
R3年3月	(690)	575	120.0	(290)	243	119.3	(980)	818	119.8
R3年4月	(680)	581	117.0	(280)	241	116.2	(960)	822	116.8
R3年平均	706	610	115.7	310	258	120.2	1,016	868	117.1

※()は見通し

※1-2月平均